



第34回近畿高等学校バスケットボール新人大会

個人トータル表

女子

令和6年2月18日 12:50 開始

決勝

ジェイテクトアリーナ奈良 A

薫英女学院	87	<table border="1"> <tr><td>17</td><td>1st</td><td>31</td></tr> <tr><td>26</td><td>2nd</td><td>22</td></tr> <tr><td>27</td><td>3rd</td><td>19</td></tr> <tr><td>17</td><td>4th</td><td>19</td></tr> </table>	17	1st	31	26	2nd	22	27	3rd	19	17	4th	19	91	◎ 京都精華学園 (京都)
17	1st	31														
26	2nd	22														
27	3rd	19														
17	4th	19														

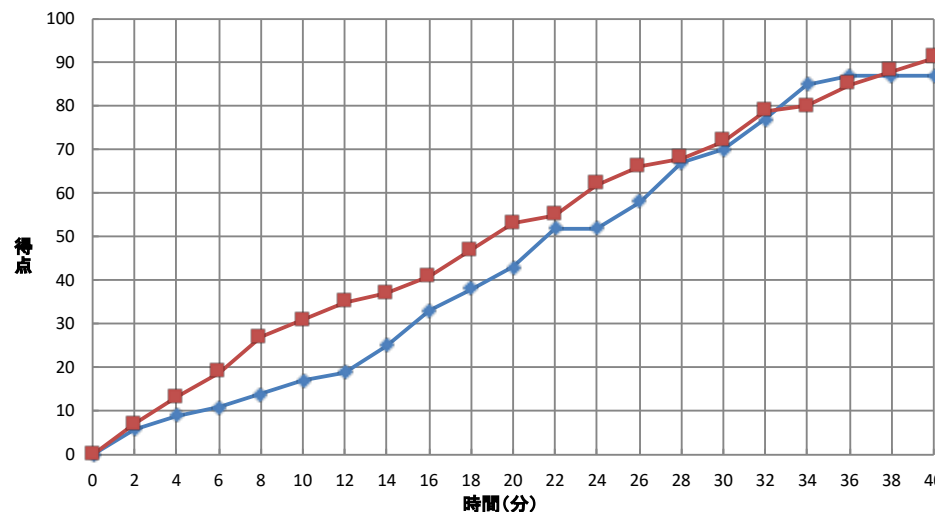
番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則	番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則
4	齋藤 穂佳	-	-	-	-	-	* 4	林 咲良	19	4	3	1	0
* 5	三輪 美良々	13	0	6	1	2	* 5	橋本 芽依	12	0	5	2	2
* 6	幡出 麗実	10	2	2	0	2	* 6	桃井 優	6	1	1	1	1
7	黒川 春陽	0	0	0	0	0	7	大久保 舞奈美	-	-	-	-	-
* 8	岩井 萌	15	1	3	6	2	8	山口 優利亜	-	-	-	-	-
9	官武 明月	-	-	-	-	-	9	金丸 千蓮	-	-	-	-	-
* 10	的場 梨緒	21	3	5	2	3	10	岡本 桜	-	-	-	-	-
* 11	富田 涼々野	0	0	0	0	2	11	米島 愛輝	-	-	-	-	-
12	小俣 亜矢	28	4	8	0	0	12	関 晴香	-	-	-	-	-
13	下崎 好	-	-	-	-	-	13	木村 由衣菜	-	-	-	-	-
14	荒木 琉伽	-	-	-	-	-	14	金谷 悠加	2	0	0	2	0
15	西澤 栞菜	-	-	-	-	-	15	フェリックス クララ	6	0	3	0	2
16	廣嶋 あかり	-	-	-	-	-	* 16	石渡 聖凜奈	10	0	5	0	1
17	大砂 菜穂	-	-	-	-	-	17	坂口 美果	0	0	0	0	0
18	荒木 花愛	-	-	-	-	-	* 18	ユザフ ボランレ	36	0	18	0	3
コーチ	安藤 香織						コーチ	山本 綱義					
Aコーチ	長渡 由子						Aコーチ	米長 真夫					
合計		87	10	24	9	11	合計		91	5	35	6	9

クルーチーフ: 高橋 直子

1stアンパイア: 嶋田 博昭

2ndアンパイア: 加藤 毅

得点経過



TO	1・2Q	3・4Q	OT1	OT2	OT3	OT4
TeamA	6:22	: 39:37	: :	: :	: :	: :
TeamB	15:36	: 22:56	39:54	: :	: :	: :

〔戦評〕

ここまで順調に駒を進めてきた薫英女学院と京都精華、夏大会と同カードでの決勝となった。薫英女学院#5三輪、#6幡出、#8岩井、#10的場、#11富田、京都精華#4林、#5橋本、#6桃井、#16石渡、#18ボランレ

第1Q
両チームともマンツーマンディフェンスでスタート。京都精華#18ボランレのゴール下で得点を重ねる。対する薫英女学院は#8岩井が3P、#10的場のゴール下で応戦する。薫英女学院は激しいディフェンスを繰り広げるも京都精華の高さに苦戦し、残り3:38でタイムアウトをとる。タイムアウト終了後、薫英女学院の#12の3P、#5三輪、的場のポストプレーで応戦するも17対31で第1Qを終了。

第2Q
薫英女学院が1-2-2ゾーンプレスを仕掛ける。薫英女学院の#8、#12のドライブインで点差を縮める。残り4:24、31対41に点差が縮まったところで京都精華がたまたまタイムアウトをとる。薫英女学院の#12小俣の連続得点で一桁台に点数を縮めるも、京都精華の#6桃井の1対1で応戦する。終了間際、薫英女学院の的場の3Pブザービーターが決まり、43対53で京都精華リードで前半を終える。

第3Q
薫英女学院は第2Qに引き続き1-2-2ゾーンプレス、京都精華はマンツーマンディフェンスでスタート。薫英女学院の小俣の1対1、#10の3Pで波に乗る。京都精華の#4のジャンプシュートで応戦するも勢いを止められず、残り6分、52対57で京都精華がタイムアウト。タイムアウト終了後、京都精華が2-1-2ゾーンディフェンスを仕掛け、再び10点差に広がるも、薫英女学院の連続3Pで70対72で京都精華リードで第3Q終了。

第4Q
両チームマンツーマンディフェンスでスタート。京都精華の林の3P、ボランレのゴール下で得点を重ねる。対する薫英女学院は小俣のドライブインで得点を重ね、一進一退の攻防が続く。残り22秒、京都精華の林の3Pが決まり4点差のところ薫英女学院がタイムアウトをとるも得点を取ることができず、87対91で京都精華が2年連続で優勝となった。両チームの素晴らしい戦いぶりに健闘を称えたい。

戦評: 福村 貴広

記録: 高田高校